

🌲 室外の備え



避難先を確認する

避難指示が出たり、火災の危険が迫ったときは、近くの小中学校や公園などの一時集合場所に避難します。そこが危なくなったら、大きな公園や広場などの避難場所に移動。自宅が被害を受け、生活困難な場合は避難所でしばらく生活します。それぞれの違いを理解しておくことが大切です。

詳細 ➡ 274 ページ

居住地域を知る

家のまわりの地形や地質、崖地など危険な場所、過去の災害とその対策を知ることが、災害対策に必要不可欠です。また、避難場所や避難経路、広い公園などのオープンスペース、公民館、コンビニなどの施設を確認しておきましょう。いざというときに早めの対応ができ、安全な場所に避難することができます。

避難所



「JIS Z8210」より引用

避難場所



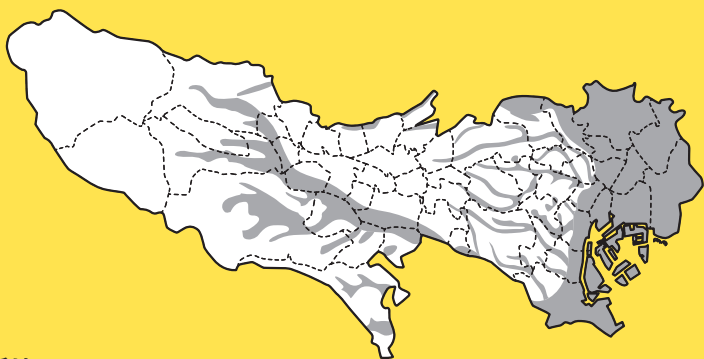
「JIS Z8210」より引用

一時集合場所

避難場所へ避難する前に一時的に集合して様子を見る場所です（学校のグラウンド、近所の公園など）。



地形を知る



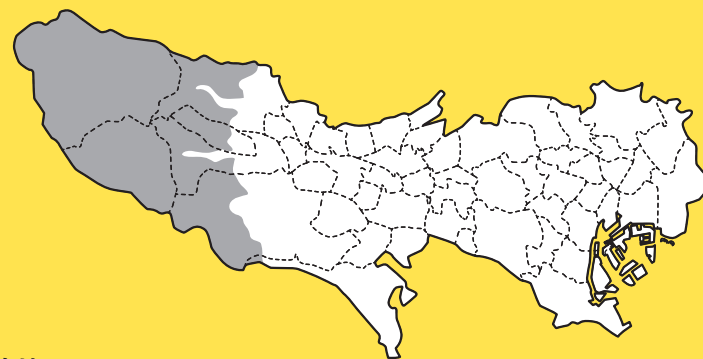
低地

多摩川沿いの低地部と台地を流れる河川沿いの谷底低地、そして下町地域から東京湾沿いの江東区、墨田区、江戸川区、葛飾区、荒川区、大田区が低地です。低地は軟弱な沖積層という地層のため揺れやすく、海岸や河川の近くは津波の危険もあります。



台地

青梅市の東側、日野市と八王子市にまたがる地域、渋谷区を中心に新宿区、世田谷区、目黒区、品川区、港区、千代田区へと広がる淀橋台、その南側の世田谷区、目黒区、品川区、大田区にまたがる荏原台です。地盤は安定していますが、急傾斜地崩壊危険箇所もあります。



山地

山地は関東山地の南東部で、東京都最高峰の雲取山がある奥秩父地域、多摩の檜原村全域と青梅市、日の出町、あきる野市、八王子市の西部です。山崩れや土石流、地滑りなどの被害を受ける危険があります。

大島町 大島 	新島村 新島  式根島 	三宅村 三宅島 	八丈町 八丈島  八丈小島 	小笠原村 父島 
利島村 利島 	神津島村 神津島 	御蔵島村 御蔵島 	青ヶ島村 青ヶ島 	母島 

島しょ地域

伊豆諸島と小笠原諸島からなり、南海トラフ被害想定では、高い津波が発災数分で到達するおそれがあります。道路や港湾施設が被災した場合、数日～1週間程度は物流が途絶えることが予想されます。



🌲 地域の危険度を知る



地域危険度を確認する

東京都では、地震に関する地域危険度として、「建物倒壊危険度」、「火災危険度」に加えて、道路等の整備状況による災害時の活動の困難さを示す災害時活動困難度を加味して総合化した「総合危険度」を測定し、町丁目ごとに相対評価によるランク分けを行っています。お住まいの地域の危険度を確認し、対策を立てるときに役立てましょう。

詳細 → 278 ページ



建物倒壊危険度とは

「建物倒壊危険度」は、町丁目内の建物特性と地盤特性により測定しています。危険度の高い地域は、古い木造や軽量鉄骨造の建物が密集し、沖積低地や谷底低地など揺れやすい地盤のある地域です。荒川・隅田川沿いの下町地域一帯に分布しています。

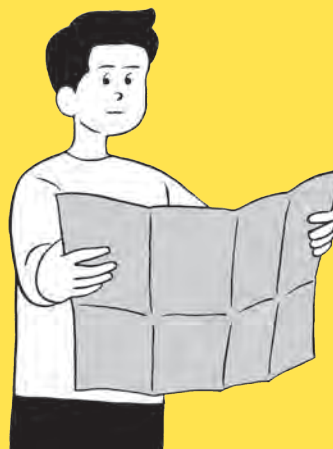


火災危険度とは

「火災危険度」は、出火の危険性と延焼の危険性を基に測定しています。危険度の高い地域は、耐火性の低い木造建物が密集し、延焼遮断帯が未形成の地域です。区部の環状第7号線の内側を中心としてドーナツ状に分布するとともに、JR中央線沿線（区部）にも分布しています。

ハザードマップを確認する

ハザードマップは、災害被害の軽減や防災対策のため、被害想定区域や避難場所、避難経路などの情報を表示した地図のことです。自分が住んでいる場所の浸水や土砂災害、液状化の危険性などを確認しましょう。



居住地の災害史を学ぶ

防災対策は過去の災害の教訓をもとに立てられています。過去の洪水や地震などの災害の歴史を学ぶことで、現実感を持った備えが可能になります。近所で昔から住んでいる人に話を聞いたり、図書館で地域の災害の歴史を調べたりしましょう。



🌳 火災から身を守る場所



地区内残留地区

東京都では、万一火災が発生しても地区内に大規模な延焼火災のおそれなく、広域的な避難を要しない「地区内残留地区」を指定しています。2013年5月現在で、地区の不燃化が進んでいる34カ所、約100km²が指定されています。具体的には千代田区の全域、中央区の銀座、日本橋周辺地区などが該当します。



避難場所

避難場所とは、主に震災時に大規模延焼火災が発生した場合、火の手から身を守るために避難する場所を言います。大規模な公園、緑地、耐火建築物地域などのオープンスペースを東京都が指定しています。詳しくは各区市町村のホームページなどで確認しましょう。



災害対応トイレやかまどベンチ付き

避難場所・活動拠点となる「防災公園」



(上) かまどベンチ、(下) 災害対応トイレ

災害時に避難して最も困る物のひとつがトイレ。そこで覚えておきたいのが、防災公園の存在です。防災公園には、給水や電気などのインフラが寸断された場合でも使える災害対応トイレが用意されているところもあります。このトイレは、災害対応型の公園便所や、耐震化した下水道管や取付管の上部に設置したマンホールを、災害時にふたを開いて便器を取り付け、他人からみられないように TENT を張って利用できるというもの。

また、普段はベンチに使用しつつ、座る部分を外すと「かまど」になる「かまどベンチ」は、災害時に必要となる炊き出しに備えたアイテム。これで火を起こし、調理などができるのです（形状は設置してある公園で違いあり）。このほか、ソーラー発電により停電時にも点灯する公園灯、断水時に井戸水を手動でくみ上げるポンプ（飲料水用ではない）、防火水槽、応急給水槽などが設置されています。

都市におけるオープンスペースは震災時にさまざまな役割を担いますが、都立公園のうち61カ所は、災害時の避難場所や活動拠点として利用することが可能な「防災公園」として整備されているのです。万一震災で大火災からの避難や徒歩帰宅を余儀なくされた場合に役立てることができるので、防災公園の場所を下記 URL からチェックしておきましょう。

東京都公園協会 <http://www.tokyo-park.or.jp/special/bousai/basyo.html>

